

学校運営協議会（第1回）議事録

校名	府立交野支援学校四條畷校
校長名	鈴木 亮彦

開催日時	令和8年6月 23 日（火） 10:00 ～ 11:45
開催場所	府立交野支援学校四條畷校 軽作業室
出席者(委員)	井上 昌二（会長） 加藤 美朗(副会長) 北口 信二（委員） 村上 智康(委員) 柳原 猛(委員) 三島 彩(委員)
出席者 (学校)	鈴木 亮彦(准校長) 沢田 恵美(教頭) 目良 孝（課長補佐） 古田 嘉康（首席） 相馬 寿子(首席) 筒井 大輔(中学部主事) 公務のため欠席:竹田 良信(首席) 加峰 一智(高等部主事)
傍聴者	1 名
協議資料	・レジュメ ・大阪府立交野支援学校四條畷校 学校編運営協議会実施要項 ・大阪府立交野支援学校四條畷校 運営協議会傍聴に関する要領 ・令和8年度 学校経営計画及び学校評価 ・令和8年度「学校教育自己診断アンケート」について ・令和8年度使用教科用図書（選定・採択）一覧表

協議内容・承認事項（説明・意見の概要）
（1）准校長あいさつ （2）「学校運営協議会委員」および「事務局」自己紹介 （3）「会長の選出」と本年度の「学校運営協議会実施要項」「学校協議会傍聴規則」の確認 （4）報告及び議事 ①本校の「令和8年度学校経営計画及び学校評価」について 「1 めざす学校像・2 中期目標」については、昨年度第3回学校運営協議会にて承認された内容のため 本協議会では准校長より、「3 本年度の取組内容及び自己評価」について説明 ②令和8年度学校教育自己診断アンケートについて 事務局より、変更したアンケート項目の説明、アンケート項目および実施スケジュールの確認 ③ 令和8年度教科用図書選定について 選定教科書の報告及び選定方法等の説明 ④その他 各委員からの意見・質問 【概要】 ・今年度実施の人権研修の内容を教えてください。 →同和問題、不登校対応、障がい理解（自閉症）の3つの研修を計画している。 ・大学でも性被害に関する調査等を行っている。今後は性被害について研修もされてはどうか。 ・ICT コンテンツの蓄積や共有の計画はどのようにされているか →一昨年より校内向け教材展示（教員が活用して効果のあったアプリ等の展示）を実施している。 昨年度は生成 AI の研修も実施した。今年度も夏季休業中に実施予定。

- ・ フォームを使ったアンケート回収率の低下に対してどのような取組みをされているか
→ 学校教育自己診断アンケートの保護者回答率は近年じわじわ増えている。
 フォームと紙面の併用に加え、今年度は質問数や文字数を減らしたりして答えやすいような工夫や回答期間中の学習発表会の機会をとらえ、幕間で回答いただくなどの工夫を検討中。
- ・ 高等学校からの地域支援のニーズはどのくらいあるか。→ 本校での支援ケースは今のところない。
- ・ 就労選択事業サービスについて、情報不足等、学校として困っていることはないか
→ 令和8年度は順調に進んでおり、2週間の実習も参加できている。受け入れていただく事業所の数もそろっており、混乱なく進んでいる。
- ・ 四條畷校は福祉避難所として指定されているか。
→ 本校はまだ指定されていない。具体的に依頼された折には、支援が必要な方の安心につながるよう前向きに検討していきたい。
- ・ 高等学校での手帳をお持ちの生徒への対応については、課題・関心・困り度は大きいと聞いている。ぜひ、地域への支援に力添えをしてほしい。
- ・ ICT コミュニケーションツールを家庭で使用し、気持ちが伝えられるようになってきているが学校では持ち込み等ができず、混乱することもあると聞いている。四條畷校ではどのように対応されているのか。
→ ご家庭で使われている ICT ツールの活用希望は今年度特に聞いていない。
- ・ 府においてはセキュリティや予算の問題があり、入れたいアプリには制限がある。必要なアプリについては、府と協議をして柔軟な対応をお願いしたい。
→ 今後、必要なツールの活用希望があれば、保護者と学校で相談して対応していきたい。
- ・ 進路支援において具体的にどのようなアフターケアをされているのか。年の離れた（30代・40代）支援が必要などの関わりといった視点での取り組みはあるか？
→ 個別的教育支援計画を活用し、個々に応じた支援について現場に引継ぎを行っている。
 卒業後もトラブルが起きた場合は、現場に赴いて対応を実施。実際に教員が訪問することで悩みを伝えてくれるということがある。年の近い方とは、卒業生による講演や実習先での関わりがあるが、年の離れた方との関わりについてはこれまでなかった。新しい視点として今後、検討していきたい。
- ・ 卒業して数年後・10年後の生活を見越した視点も大切だと思うので、そのような視点での研修を希望される場合は、地域として協力していきたい。
- ・ 寂しさからSNS・性トラブルに発展したケースはある。トラブルに巻き込まれないために対応が重要だと感じる。
- ・ 教員の残業時間は？ → （学校）およそ月15時間 年間200時間
 学校で抱えている課題について、外部講師等を地域として協力できることもあるかもしれない。
→ （学校）地域のリソースを調べ、コーディネートも含めて検討していきたい。
- ・ 日ごろの生活の中で、支援の必要な方々との関わりがないのですが、地域でもみていくべきと思うので、今回を機会に教えていただき、学んでいきたい。
- ・ さくら連絡網での情報提供において、データのみだと申し込みしにくいいため、紙面配付やフォームを添付するなど、申し込みしやすいようにしてほしい。
→ （学校）ご指摘いただいた点について今後、検討・改善していく。
- ・ 学校教育自己診断アンケートについては質問を減らしていただだけ、回答しやすくなった。